



第 39 期 第 2 四半期 株 主 通 信

(2013年4月1日から2013年9月30日)

CONTENTS

第 2 四半期決算 (連結) ご説明 ————— P01

トップインタビュー ————— P03

コーポレートデータ ————— P05

MEIKO の CSR ————— 裏表紙

39th interim

MEIKO REPORT

証券コード：6787

株式会社 メイコー

当第2四半期決算(連結)のポイント

プラス要因(前年同期比)

1. アジア系および中華系スマホ向け基板の順調な立ち上げ
2. 自動車向け基板の堅調な推移

マイナス要因(前年同期比)

1. ベトナム工場の火災

電子回路基板別の売上構成

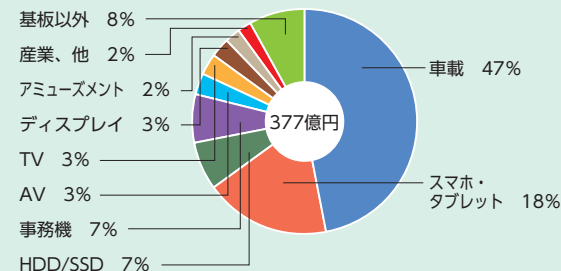
商品別では、自動車向け基板が堅調に推移し売上比率で約50%を維持する中、スマホ・タブレット向け基板が大きく伸長し、その売上比率は前第2四半期と比較して9%から18%へ倍増しました。

一方、薄型TV向け基板においては、国内各社のテレビ事業のさらなる縮小により、売上比率は7%から3%と半減しました。

品目別では、スマホ・タブレット向け基板の売上が大幅に増加した事により、ビルドアップ基板の比率が19%から26%へ増加しました。

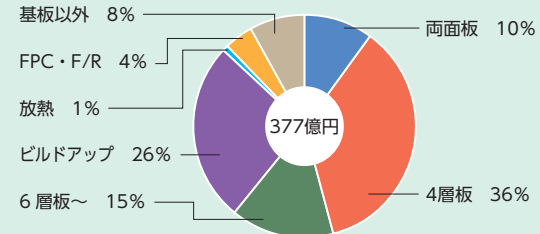
商品別

	前第2四半期	当第2四半期
■ 車載	49%	47%
■ スマホ・タブレット	9%	18%
■ HDD/SSD	10%	7%
■ 事務機	7%	7%
■ AV	4%	3%
■ TV	7%	3%
■ ディスプレイ	1%	3%
■ アミューズメント	4%	2%
■ 産業、他	3%	2%
■ 基板以外	6%	8%



品目別

	前第2四半期	当第2四半期
■ 両面板	12%	10%
■ 4層板	38%	36%
■ 6層板~	19%	15%
■ ビルドアップ	19%	26%
■ 放熱	2%	1%
■ FPC・F/R	3%	4%
■ 基板以外	6%	8%

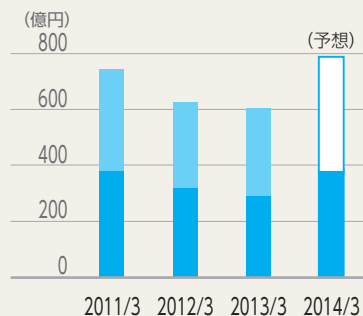


売上高/営業利益/四半期(当期)純利益

好調な自動車向けおよび海外のスマートフォン、タブレット関連を中心に新規顧客の獲得と受注の拡大に努めた結果、国内および海外の各工場の生産規模が拡大し、売上、利益ともに前第2四半期の実績を上回りました。

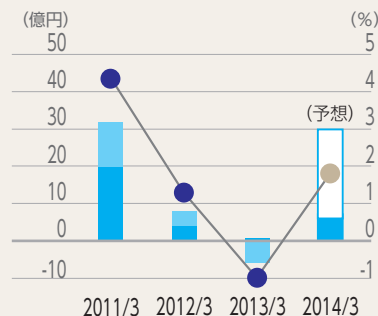
売上高

377 億円



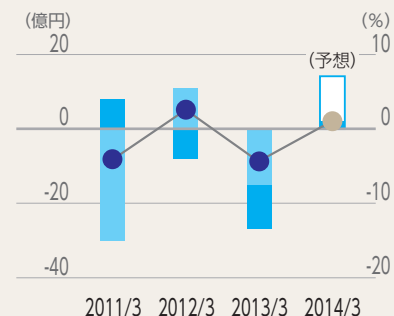
営業利益/営業利益率

6 億円



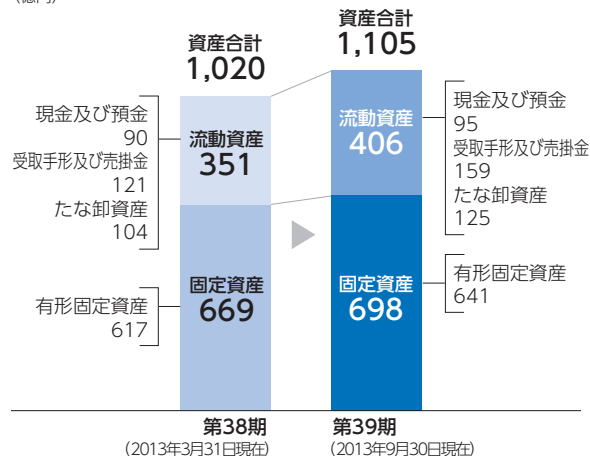
四半期(当期)純利益/四半期(当期)純利益率

2 億円



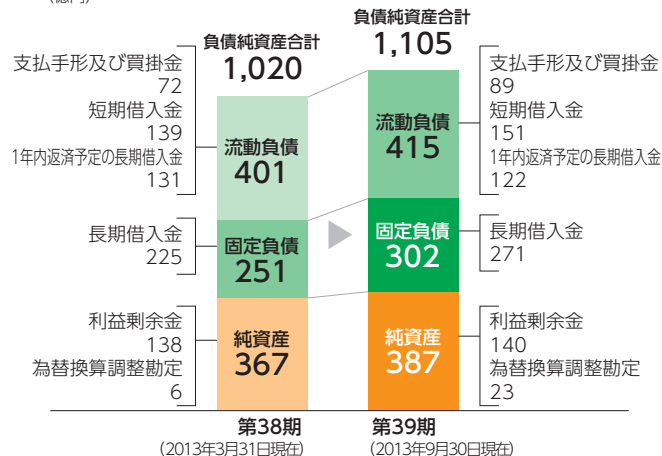
資産の部

(億円)



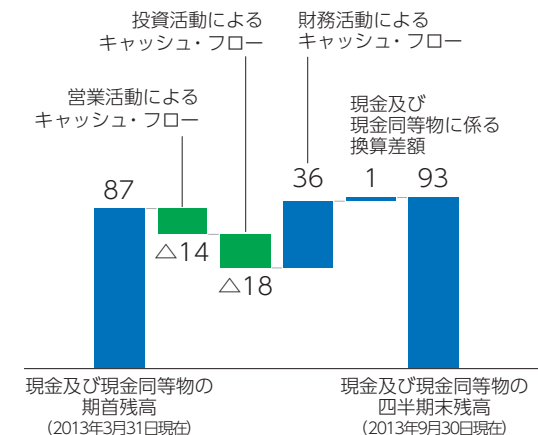
負債・純資産の部

(億円)



キャッシュ・フローの状況

(億円)



主な増減: 資産の部では、流動資産において、受取手形及び売掛金が38億1千6百万円増加、商品及び製品が9億6千5百万円増加、固定資産において、有形固定資産が24億2千6百万円増加いたしました。

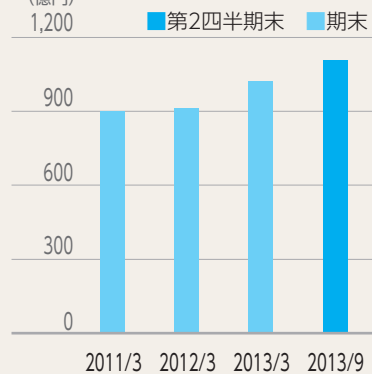
主な増減: 負債の部では、流動負債において、支払手形及び買掛金が16億5千8百万円増加、短期借入金が12億2百万円増加、固定負債において、長期借入金が46億1千3百万円増加いたしました。

主な増減: 当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は前会計年度末に比べて5億1千2百万円増加し、93億円となりました。

総資産

1,105 億円

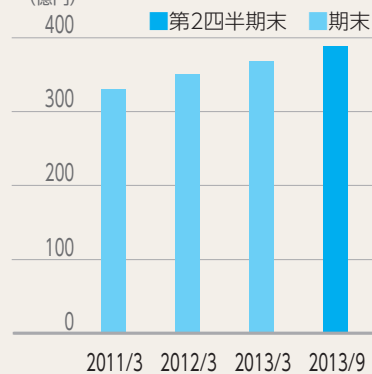
(億円)



純資産

387 億円

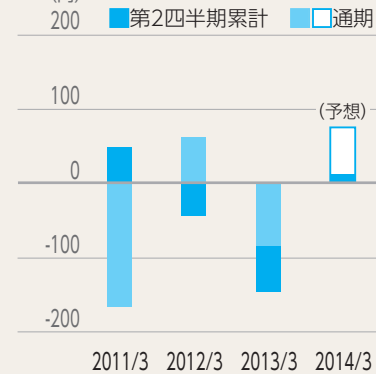
(億円)



1株当たり四半期(当期)純利益

12.56 円

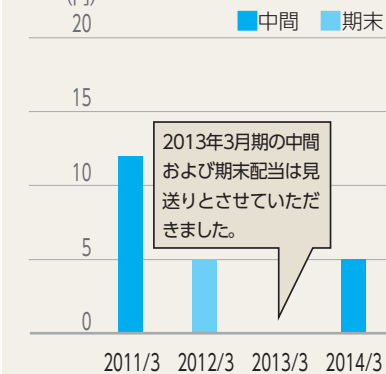
(円)



1株当たり配当金

5 円

(円)



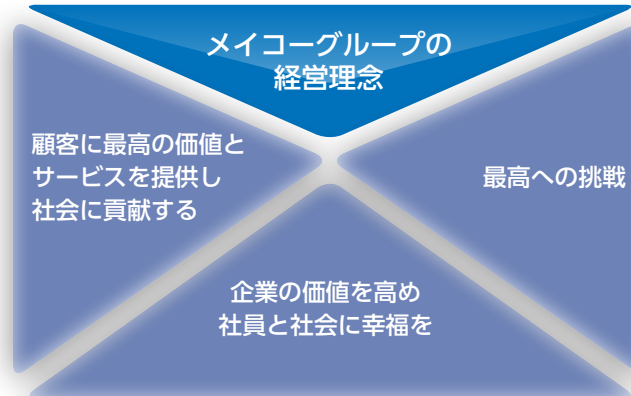
2013年3月期の中間および期末配当は見送りとさせていただきます。



株主の皆様におかれましては、平素より当社の事業につきまして格別のご支援とご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社第39期(2014年3月期)第2四半期MEIKO REPORTをお届けするにあたり、インタビューにお答えする形で、当第2四半期累計期間の事業の状況と今後の経営戦略についてご説明いたします。

代表取締役社長 **名屋 佑一郎**



Q1 当第2四半期連結累計期間における事業環境と経営成績についてお聞かせください。

A 依然経済全体は不透明ながらも自動車業界の拡大により黒字を確保

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、米国においては住宅市場や雇用の回復を背景に個人消費が拡大するなど、緩やかに回復の兆しが見えるものの、欧州においては長期化している財政金融危機の根本的な解決が図れず緊縮財政等の混迷から脱却できない状態が依然続いております。また、アジアにおいても、景気の減速が継続している中国においては生産活動や設備投資および個人消費等が低迷し、その他の多くの新興国においても経済成長のペースが鈍化するなど、先行きが不透明な状況にあります。

一方、国内経済においては、政府と日本銀行による経済・金融政策等の効果で消費マインドが好転し、個人消費の増加や雇用の改善、生産や輸出の持ち直しな

ど前向きな動きが見られ、景気の底入れが確認できるようになりました。

そうした中、当社グループの主要な取引先である自動車業界においては、世界的な自動車需要の回復やエコカーへの関心の高まりを背景に堅調な拡大を続けております。またエレクトロニクス業界では、海外メーカーのスマートフォン・タブレット関連の需要が増加した反面、国内メーカーの伸び悩みに加え、パソコン関連機器の需要減や国際競争の激化によるテレビ事業の縮小等により、国内各社は引き続き厳しい状況にあります。

このような状況のもと、当社グループでは、今後最も成長が期待される車載関連基板の生産規模拡大を推進してまいりましたが、好調な受注により既存の山形工場や中国広州工場に加え、昨年より車載基板の生産を開始した中国武漢第一工場においても順調に生産が増加しました。そして、さらなる車載関連基板の生産規模拡大の為に、ベトナム工場においても生産の準備を進めています。また、スマートフォン・タブレット関連においても、海外新規顧客の開拓を積極的に行ったことにより、売上高は前年同期を大きく上回りました。利益面においては9月に発生させたベトナム工場の火災の影響により当初の計画には未達ではあったものの、黒字回復することが出来ました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、377億2千4百万円(前年同期比28.0%増)と前年同期に比べ82億5千万円の増収となりました。

た。また、損益面は、営業利益が6億9千1百万円（前年同期比866.1%増）、経常利益が9億8千2百万円（前年同期は経常損失18億2千6百万円）、四半期純利益が2億3千5百万円（前年同期は四半期純損失27億4千7百万円）となりました。

Q2 通期の見通しについて
お聞かせください。

A 市場の高まりを受け、車載やスマートフォン分野の事業をさらに加速化

下半期では、市場拡大の好機を確実に捉え、好調な車載分野に加えて、スマートフォン分野でアジア系顧客からの受注をさらに拡大し、最先端のビルドアップ基板の生産拠点であるベトナム工場の活用度を積極的に引き上げることで、さらなる経営基盤の強化を図っていきます。車載・スマートフォン分野では、ともに2桁以上のプラス成長を見込んでいます。

通期の業績予想については、連結売上高790億円（前期比30.1%増）と連結営業利益30億円（前期は6億5百万円の営業損失）、連結経常利益28億円（前期

通期の見通し（連結）

売上高	790億円
営業利益	30億円
経常利益	28億円
当期純利益	14億円

は3億8千6百万円の経常損失）、連結当期純利益14億円（前期は15億6千7百万円の当期純損失）といたしました。

Q3 生産体制の現状と今後について
お聞かせください。

A 2年ぶりに石巻工場を本格的に再稼働。 内外での生産体制を一層強化

国内においては、東日本大震災で操業停止状態だった石巻工場が2年ぶりに再稼働いたしました。石巻工場は、当社が今後成長していくための新技術、新製品の立ち上げの役割を担います。特にスマートフォンやタブレットPCなどに搭載される小型、薄型、高機能モジュール用基板や最先端の部品内蔵基板の開発試作を中心とした生産拠点として位置付けています。

海外では、ビルドアップ基板の売上高を大幅に伸ばしていく方向で、中国の武漢工場とハノイのベトナム工場を主力に生産体制の強化を図ります。武漢第一工場は車載関連基板の生産をさらに拡大することで従来の主力であった薄型テレビ用基板からの脱却を図り、総合的な稼働率を高めていきます。また武漢第二工場では、主力のスマートフォン・タブレット向けビルドアップ基板生産のさらなる拡大を図ります。ベトナム工場でもスマートフォン・タブレット用基板の主力工場として生産能力を拡大していくとともに、車載関連基板やフレキシブル基板等の生産も拡大させる計画です。このようにグローバルな生産体制で、成長市場に向けて安定した供給体制を構築することで、収益の拡大を目指します。

さらに技術開発面でも「メイコー研究開発センター」を中心に材料や要素技術のレベルから信頼性や品質、コスト、生産技術などの優位性を目指し、新しい商品の開発や将来に向けた全社の技術力の向上を図ってまいります。

Q4 株主の皆様へメッセージを
お願いします。

A 内部留保を充実させ、 今後の利益還元に注力

当社は、株主の皆様に対する利益向上を経営の重要課題の一つとし、利益配分につきましては経営成績等を総合的に勘案し安定的な配当の維持に努めます。内部留保につきましては、将来にわたる株主の皆様への利益を確保するため、経営基盤をより一層強化、充実するための投資に充当し、今後の事業展開に役立てることを基本方針としております。

当期の中間配当金につきましては、第2四半期連結累計期間の業績および今後の見通しなどを総合的に勘案した結果、1株当たり5円の配当をさせていただきます。当社を取り巻く経営環境は変わらず厳しくはありますが、株主の皆様をはじめ、すべてのステークホルダーのご支援、ご期待に応えるべく、さらなる収益の拡大と企業価値向上に向け、努めてまいります。今後とも一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

会社概要

商号	株式会社メイコー
設立	1975年11月25日
本店所在地	神奈川県綾瀬市大上5-14-15
資本金	105億4,563万円
従業員数	11,040名(連結) (国内808名) (海外10,232名)
主な事業内容	電子回路基板の設計・製造・販売 電子機器の開発・製造・販売

役員

代表取締役社長執行役員	名屋 佑一郎
取締役専務執行役員	名屋 精一
取締役専務執行役員	平山 隆英
取締役専務執行役員	篠崎 政邦
取締役常務執行役員	鈴木 哲郎
取締役	名屋 晴行
取締役	佐藤 国彦
常勤監査役	伊豫本 齊
監査役	月井 啓之
監査役	越村 安信

関連会社

株式会社山形メイコー	電子回路基板の製造
株式会社エム・ディー・システムズ	電子回路基板の設計
株式会社メイコーテック	電子回路基板の販売 映像機器・産業機器の製造および販売
名幸電子(広州南沙)有限公司	電子回路基板の製造
名幸電子(武漢)有限公司	電子回路基板の製造
名幸電子香港有限公司	電子回路基板の販売
Meiko Electronics Vietnam Co., Ltd.	電子回路基板の製造、EMS
MDS Circuit Technology, Inc.	電子回路基板の設計
Meiko Electronics America, Inc.	電子回路基板の販売
Meiko Electronics Europe GmbH	電子回路基板の販売

拠点一覧

生産拠点

神奈川工場	〒252-1104	神奈川県綾瀬市大上5-14-15	0467-76-6007
福島工場	〒979-0401	福島県双葉郡広野町大字上北迫字岩沢1-2	0240-27-3970
石巻工場	〒986-0844	宮城県石巻市重吉町8-5	0225-98-8769
山形工場	〒999-3511	山形県西村山郡河北町谷地字真木250	0237-73-4515
大和事業所 ※1	〒242-0025	神奈川県大和市代官1-14-1	046-205-2338
中国広州工場		中国・広東省広州市南沙経済技術開発区西部工業区広生路2号	+86-20-84980000
中国武漢工場		中国・湖北省武漢市経済技術開発区神龍大道9号	+86-27-84890000
ベトナム工場		Lot LD4,Thach That -Quoc Oai Industrial Zone., Hanoi	+84-4-3368-9888

研究開発拠点

メイコー研究開発センター	〒243-0414	神奈川県海老名市杉久保南3-35-6	046-238-5985
--------------	-----------	--------------------	--------------

販売拠点

基板第一営業部	〒252-1104	神奈川県綾瀬市大上5-14-15	0467-76-6003
基板第二営業部	〒252-1104	神奈川県綾瀬市大上5-14-15	0467-76-6002
基板第三営業部	〒252-1104	神奈川県綾瀬市大上5-14-15	0467-76-9004
国際営業部	〒252-1104	神奈川県綾瀬市大上5-14-15	0467-70-4486
EMS部 ※2	〒242-0025	神奈川県大和市代官1-14-1	046-205-1766
メタルマスク部 ※3	〒242-0025	神奈川県大和市代官1-14-1	046-205-6578
名古屋営業所	〒460-0002	愛知県名古屋市中区丸の内3-18-1三晃丸の内ビル6F	052-950-2055
大阪営業所	〒532-0011	大阪府大阪市淀川区西中島7-5-25新大阪ドイビル10F	06-4806-7760
大宮営業所	〒330-0845	埼玉県さいたま市大宮区仲町1-124-2OZビル2F	048-782-7901
営業統括本部(中国広州)		中国・広東省広州市南沙経済技術開発区西部工業区広生路2号	+86-20-84985675
国際営業部(中国広州)		中国・広東省広州市南沙経済技術開発区西部工業区広生路2号	+86-20-84985675
亜洲営業部(中国広州)		中国・広東省広州市南沙経済技術開発区西部工業区広生路2号	+86-20-84985675
上海営業所		上海市長寧区宣化路300号華寧国際南塔22階2201室	+86-21-32528001
天津営業所		中国天津河西区南京路20号金皇大厦3502	+86-22-58181900
台湾支店		台湾桃園市経国路15号8F-3	+886-3-357-3556
名幸電子香港有限公司		香港新界葵涌興芳道223号新都会広場第二期21字楼2107A室	+852-21-918590
メイコーアメリカ		5050 El Camino Real Suite 108, Los Altos, CA 94022	+1-650-336-1400
メイコーヨーロッパ		Frankfurter Ring 193a 80807 München	+49-89-3272-949-0
メイコーテック大阪本部	〒532-0011	大阪府大阪市淀川区西中島7-5-25新大阪ドイビル2F	06-4806-7761
メイコーテック横浜支部	〒222-0033	神奈川県横浜市港北区新横浜3-23-3新横浜AKビル7F	045-548-8061

※1、3は2013年10月末日、※2は2013年11月7日をもって、移転をいたしました。

株式情報

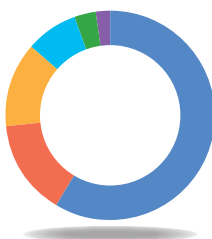
発行可能株式総数	63,200,000 株
発行済株式の総数	18,774,076 株 (自己株式 629,244株を除く)
株主数	5,623名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
名屋 佑一郎	4,697	25.0
PLEASANT VALLEY	631	3.4
名幸興産株式会社	608	3.2
有限会社ユーホー	521	2.8
名屋 晴行	488	2.6
名屋 精一	440	2.3
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	391	2.1
HILLCREST, L. P.	379	2.0
株式会社三井住友銀行	377	2.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	350	1.9

※当社は、自己株式 629,244 株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。
また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



個人・その他	58.7%
金融機関	14.9%
外国法人等	12.9%
その他の法人	8.1%
自己名義	3.2%
金融商品取引業者	2.2%

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日 期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日

公告の方法 電子公告の方法により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告が行えない場合は、日本経済新聞に掲載します。
公告掲載URL:
<http://www.meiko-elec.com/ir/pa.shtml>

上場証券取引所 東京証券取引所 JASDAQ(スタンダード)

株主名簿管理人 および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎ 0120-782-031

(インターネットホームページURL)
<http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

【株式に関する住所変更等のお手続きについてのご照会】

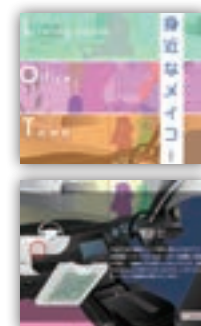
証券会社の口座をご利用の株主様は、住所変更等のお手続きについては、取引証券会社にご照会ください。

証券会社の口座をご利用でない株主様は、上記電話照会先までご連絡ください。

ホームページのご案内



TOPページ



製品紹介(身近なメイコー)



CSR報告書

当社ホームページでは最新のIR情報ニュースリリースの他、製品紹介やCSR情報もご覧いただけます。
当社ホームページもご活用ください。

メイコー

検索

<http://www.meiko-elec.com/>

MEIKO の CSR

トピックス

福島工場、石巻工場の取り組み ～ 緊急時備蓄品の整備～

このたび、福島工場および石巻工場では、東日本大震災の教訓を活かし、災害時の安全確保のための緊急時備蓄品を整備し直しました。

今回整備した備蓄品は、災害発生時に、まず従業員の生命を守ることを最優先としたうえで、救助・救出活動や宿泊・帰宅などの支援をおこなうことを目的としています（図1の縦方向）。その中で、一般従業員向けと緊急要員（自衛消防隊や緊急対策本部）向けに分け、それぞれ必要となる備品を選定しています（図1の横方向）。

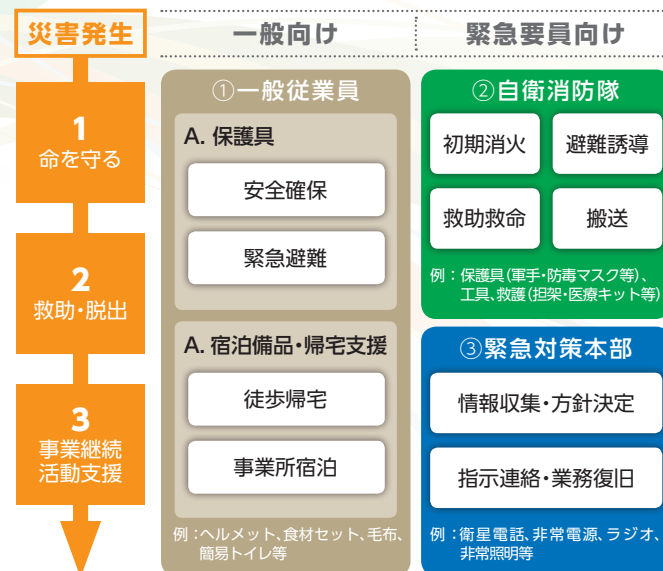
今回、福島工場および石巻工場で導入したのは、図1の①一般従業員と②自衛消防隊の部分になります。今後、他の事務所についても順次整備していくとともに、緊急対策本部として事業継続のために必要となる備品についても整備を進めていきます。

なお、今回整備した備蓄品および救命工具等について、外部専門家の指導のもと実演形式での訓練をおこなう予定です。

リスク管理体制の整備・構築に向けたメイコーの取り組み

当社は、常に当社を取り巻く環境、災害、品質、情報セキュリティなどのさまざまなリスクを想定して、リスク管理に係る「リスク管理基本規程」および「緊急時対応マニュアル」を作成し、さらにお客様の生産計画への影響を最小限におさえるべく、当社の各工場においてBCP (Business Continuity Plan) を作成し、緊急時に備えています。

【図1】 備蓄品方針



【表1】 今回整備した備蓄品リスト

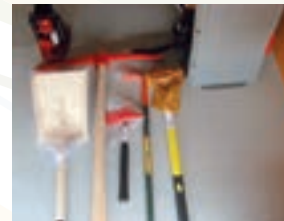
ヘルメット	図1の①	保護具セット	図1の②
帰宅者セット		工具セット	
毛布		担架	
簡易トイレ		食料セット	



■ 帰宅者セット(エナジークッキー、サイリウムライト、保存飲料水、サージカルマスク、アルミブランケット、簡易トイレ、滑り止め付き軍手)



■ 保護具セット(LEDヘッドライト、ゴーグル、革手袋、ホイッスル、防塵マスク)



■ 工具セット(ハンマー、テコバール、レスキューアックス、爪付き回転ジャッキ、ジャベル、ツルハシ)



■ ヘルメット(福島工場は「タタメット」※ ※折りたたみ式ヘルメット)



■ 担架(ディスクポストレッチャー)



■ 食料セット(保存飲料水1.5L、アルファアール)